

躍進目覚ましい中国のフィンテックサービス

国際社会経済研究所(NEC) グループ)主任研究員

大平 公一郎



膨大な顧客

フィンテックサービスが主役である。大手インターネット企業は、リーヤーを見ると、米イーコマースや参加国や日本ではフィンテックベンチャーや既存金融機関が中心となるが、中国ではアリババ、テンセント、バイドゥ、京東商城といったインターネット企業

いのが現状だ。

サービス拡充

インターネット金融を専門に手がけるベンチャーは多く立ち上がっているが、大手インターネット企業が持つ膨大な顧客数や知名度、さまざまなリソースを背景とした優位性を崩すことは難しく、独自のサービスを展開するベンチャーは目立たない

主なインターネット金融分野の管理監督機関

サービス分野	管理機関
インターネット決済	人民銀行
インターネット貸借(P2P/少額貸借)	銀行業監督管理委員会(銀監会)
クラウドファンディング	証券監督管理委員会(証監会)
基金(ファンド)販売	証券監督管理委員会(証監会)
インターネット保険	保険監督管理委員会(保監会)
インターネット信託・消費者金融	銀行業監督管理委員会(銀監会)

主役は大手ネット企業

く、ビッグデータの分がありそうだ。析など他のインターネット金融サービスと組み合わせて成り立つ事業を提供する企業が多くなっている。大手インターネット企業は、イーコマースやSNSサービスに加えて、決済、融資といったさまざまな金融サービスから大量の情報を入力し、さらにベンチャーの技術を取り込むことで、ビッグデータ分析や人工知能の開発といった分野でも大きく先行する可能性

規制整備進む

一方、詐欺や不良債権化のリスクなど大きな社会的問題になって

いる側面もあるため、2015年頃からは監督官庁の責任分担の明確化や各種サービスに対応する規制の整備なども進んでいる。

既存金融機関にはもともと国有であった企業も多く、その権益を脅かす可能性もある。進めることには抵抗も大きかったと考えられる。そうした中での政府の積極的な姿勢は、新しい技術や企業をを活用して金融サービスを大きく変革し、消費主導の経済への移行を進める本気度が表れているといえよう。

(金曜日に掲載)